



流れの  
先に

# 有機野菜

北総東部用水の恵み



「オーエフあいや」の小堀さん(北総東部土地改良区理事)

千葉県香取郡多古町<sup>タゴ</sup>で産地直送野菜栽培に取り組む「オーエフあいや」。ホウレンソウと水菜、小松菜が主力品目の「オーエフあいや」のこだわりは、有機栽培であること。広大な敷地内のビニールハウスでは、手間暇かけて育て上げたホウレンソウがピッシリと植えられている。

「最初はたったの1棟から始まったんだがなあ…」

今では54棟にまで増えたビニールハウスを見上げながら、「オーエフあいや」の小堀胤治さんは呟く。

「北総東部用水の通水をきっかけに、ハウス栽培を導入したんです。それにより、安定して栽培・出荷ができるようになり、ここまで規模を拡大することができました。」



## ハウス栽培のスタート

野菜の栽培方法は、大きく分けて2つある。ひとつは、自然の土地や畑で育てる露地栽培と、もうひとつは、ビニールハウスなどを利用することで、季節外れの野菜でも育てることのできるハウス栽培だ。

「北総東部用水が通水する以前の昭和56年頃まで、『オーエフあいや』は、露地栽培でダイコンやニンジンなどを育ててきました。」

もともと、北総東部用水の位置する北総台地は、大きな水源が無く、雨水や湧き水だけを頼りに栽培を行わなければならない、農業を営むには非常に厳しい地域であった。そのため、この地域では、主に落花生やサツマイモなど乾燥に強い作物が栽培されてきたのだ。

「北総東部用水の通水以降、状況は変わりました。利根川の豊富な水を安定して得ることができるようになり、露地栽培はもちろんのこと、散水器具の装備が必要なハウス栽培にも手が出せるようになりました。」

ハウス栽培の導入を機に、ハウレンソウの周年栽培に転換した「オーエフあいや」は、新品目として水菜を導入するなど、経営規模の拡大を図り、その年間販売金額は、北総東部用水が通水する以前の数倍にまで成長を遂げたのだ。

## 野菜栽培と水の関わり

では、これ程の規模で野菜を栽培していくために、一体どれ程の水が必要となるのか。

「確かに、野菜を栽培するにあたっては、十分な量の水が必要です。が、実は、ハウス栽培について言えば、稲作に使用する程の大量の水は必要ありません。むしろ大事なことは、安定的に毎日欠かすことなく水を使用できるかどうかなんです。」

そう、人間が水無しで生きられるのはたったの3日と言われているように、野菜もまた何日も水を与えられなければ、当然枯れてしまう。

「夏場は特に深刻です。54棟のハウスに計画的な散水ができなければ野菜は枯れてしまいます。だから、北総東部用水には、これまで通りの十分な水供給とともに、365日間欠かすことなく水を供給してもらいたいのです。」

## 野菜栽培と北総東部用水

有機野菜の栽培が魅力の「オーエフあいや」。その敷地内には、防虫ネットや土壌を熱水で消毒するための機械など、有機栽培のための設備が所狭しと並んでいる。また、同じ志を持つ地域の仲間達と組織を立ち上げ、有機野菜の販路の拡大や安定出荷のための取り組みも行っている。

全国第3位(平成22年)の農業産出額を誇る千葉県。北総東部地域から安定して出荷される野菜が、千葉県を国内トップクラスの農業県にまで押し上げる原動力となった。それは、台地を潤す水とともに、小堀さんを含む北総東部地域の農家の方々のご尽力の賜に違いない。

### 読者プレゼント

「有機野菜の詰め合わせ」

5名様



今回取材にご協力いただいた「オーエフあいや」の小堀さんから読者の方5名にプレゼントをいただきました。

ご希望の方は、①ご住所、②お名前、③性別、④年齢、⑤電話番号、⑥このコーナーの感想を記載の上、ハガキにて下記までお申し込みください。

■宛先 〒330-6008 さいたま市中央区新都心11番地2  
独立行政法人水資源機構広報課 広報誌係

■応募締め切り 平成25年6月28日(金)(当日消印有効)  
※当選者の発表は、プレゼントの発送をもってかえさせていただきます。  
いただいた個人情報の目的外利用はいたしません。